



《大正伍萬浪漫》1990年 田川市美術館

C'n
scene
news

千葉市美術館ニュース 「C'n」(シーン) 98号

vol. 98

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〔編集・発行〕千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8 TEL. 043-221-2311
FAX. 043-221-2316 Chiba City Museum of Art
3-10-8 Chuo, Chuo-ku, Chiba 260-0013, Japan
<https://www.ccma-net.jp/>
〔発行日〕2021年4月3日
〔印刷〕株式会社 エイチケイ グラフィックス

ccma_jp @ccma_jp



大・タイガー立石展

TIGER Tateishi: The Retrospective

絵画やイラスト、絵本、マンガ、彫刻など、さまざまなジャンルを縦横無尽に横断しながら、色鮮やかで独創的な世界を展開した立石紘一、ことタイガー立石、こと立石大河亞（1941-98）。生誕80年をむかえる今年、約200点の作品・資料を展覧する大回顧展を開催します。今回は、ちょっとした絵解きを通して、その世界の片鱗に触れてみることにしましょう。全貌はぜひ、展示室で！

POP-ARTの魔術師



上:『とらのゆめ』より原画 1984年 個人蔵 下左:《明治百年》1965年 青森県立美術館 下右:《封函虎》1989年 千葉市美術館(サトウ画廊コレクション)

繰り返されるモチーフ とら・とら・とら！

名前にもあるとおり、虎はタイガー立石にとって非常に重要なモチーフです。初出は1964年の作品で、その後、生涯にわたって虎を描き続けました。彼の描く虎は、色もかたちも変幻自在。緑色になり、丸くなり、マッチになり、めくるめくタイガー・ワールドの水先案内人のようです。

時代を映す大作シリーズ

明治／大正／昭和の時代を、政治、経済、社会、生活、文化、娯楽に関する多彩なイメージによってコラージュのように描いた三部作。あそこにもここにも、時代を反映した人物や作品、出来事が描かれています。いったいなにが描かれているのか、少しだけご紹介しましょう。



大正を表現した《大正伍萬浪漫》に描かれた美術作品は……

- 1 岸田劉生《道路と土手と塀(切通之写生)》1915(大正4)年
- 2 中村彝《エロシエンコ氏の像》1920(大正9)年
- 3 岸田劉生《麗子住吉詣之立像》1922(大正11)年
- 4 甲斐庄楠音《裸婦》1925(大正14)年頃
- 5 竹久夢二《青春譜》1930(昭和5)年
- 6 古賀春江《深海の風景》1933(昭和8)年
- 7 竹久夢二《黒船屋》1919(大正8)年
- 8 萬鉄五郎《もたれて立つ人》1917(大正6)年



《昭和素敵大敵》1990年 田川市美術館

明治を表現した《明治青雲高雲》と、昭和を表現した《昭和素敵大敵》も、展示室でじっくり見てみてください！

大・タイガー立石展 POP-ARTの魔術師

会 期 2021年4月10日(土)～7月4日(日)
開館時間 10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
休 室 日 5月6日(木)、5月24日(月)、6月7日(月)



館長のつれづれだより特別編

河合正朝館長 × 山梨絵美子新館長 特別対談



2021年3月末をもって河合正朝館長が退任され、4月からは、山梨絵美子新館長が就任します。今回は、毎号お届けしてきた「館長つれづれだより」の特別編として、河合館長と山梨新館長の対談を収録しました。千葉市美術館のこれまで／これからを、おふたりの視点でお届けします。

〔進行：学芸員 庄子真汀、収録日：3月10日〕



河合正朝館長

——河合館長が2012年4月に就任されてから、9年が経とうとしています。振り返ってみていかがですか。

河合 当時は、開館から15年以上が経ち、「なにをやっても人が入らない」と言われた時期を乗り越え、ベテランになった学芸員たちがそれぞれの能力をすでに発揮している時期でした。ですので、展覧会についてはあまり口出しをしませんでした。どちらかというと、運営の面を考えることが多かったですね。たとえば、コレクションの拡充が求められる一方、日本の公立美術館には、作品を購入する予算がいまはほとんどありません。そこで、寄贈や寄託を積極的に受けることで、コレクションを充実させていきました。とくに、ピーター・ドラッカーの山荘コレクションを企業に入手して貰い、散佚せず当館にご寄託いただけたことは、大変大きなできごとでした。

——思い出深い展覧会がありますか。

河合 就任して比較的すぐに開催した、「仏像半島一房総の美しき仏たちー」（2013年）です。仏像を展示する展覧会の多くは、仏像をガラスケースのなかに入れてしまします。しかし、仏像はお堂の空間のなかで接するものです。そこ

で、空間をふくめた展示構成を提案したところ、担当学芸員の西山さんとも意見が一致し、よい展覧会になりました。お客さんにも好評をいただいたと聞いています。幸い、僕が就任してからは、歴代動員数の比較的上位に入る展覧会が多かったそうです。辻さん（*初代館長・辻惟雄）、小林さん（*2代目館長・小林忠）が苦労して学芸員を育て、それが実を結んだ結果だと思います。

彼らには、展覧会のアイデアがあれば、すぐに企画書を書いて、予算を組む能力がある。千葉市美術館は、そのような学芸員のいる非常に優れた美術館だと思います。

山梨 とくに準備室を経験されている方々は、美術館のことを大変よくご存知ですね。美術館の生涯のどこに居合わせるかによって、鍛えられる能力や求められる能力も異なってくるのではないかと思います。これまで蓄積されてきたものを、若手の学芸員に引き継いでいくことも重要ですね。

——山梨さんにお聞きします。館長をお引き受けいただいたきっかけがあれば、ぜひ教えてください。

山梨 作品の近くにいたい、というのが一番です。東京文化財研究所に入ったのも、そういった想いからでした。当時研究所には、黒田清輝の作品がありましたから。河合先生もおっしゃっていましたが、すぐに作品が見られる環境にいられるということは、私にとってとても重要なことです。そして、美術館で働きたいともずっと思っていました。今回、学芸力が大変高く、豊かな企画を開催している千葉市美術館からお声がけいいただき、お引き受けすることを決めました。

——千葉市美術館にはどのようなイメージをお持ちですか。

山梨 全国レベルでも、非常に質の高い展覧会を開催してきている美術館だと思います。また、コレクションがとても充実しています。これには驚きました。千葉市の財産ですね。学芸の力もあるし、作品もいいものを持っている。たと

えば、田中一村という作家は、間違いなく千葉市美術館の力もあって広く知られるようになりました。先日まで開催していた田中一村展でも、たくさんの資料が展示されていました。ああいった、地域の美術の顕彰を地道に行っていることは、すばらしいことだと思います。

河合 以前、学芸員の松尾さんに、「所蔵品を使った特集展示も重要なんです」と言われたことがありました。千葉市美術館では年間5,6種類もの展覧会を開催しており、僕はそれに反対していたんです。借用作品の多い企画展を6つなんて、まわっていかないですから。しかし、所蔵品を活用することで、実質それくらいの数の展覧会を開催できるのだとわかりました。山梨さんも実際に収蔵庫を見て、活用できると感じた作品があれば学芸員と相談し、所蔵品を大事な柱として活用するような展覧会を是非やってほしいですね。市民のみなさんにも、自分たちの財産だと思っていただきたいです。

山梨 辻先生もおっしゃっていたのですが、千葉市美術館には所蔵品目録がないんですね。ひとつの課題として、図版も掲載された所蔵品目録を作ること。さらに、可能であればウェブにも掲載することが望まれます。とくに若い世代は、インターネットを通して情報を得ます。その世代にもリーチしつつ、市民のみなさんに自分たちの財産を知っていただくことが大事だと思います。また、作品を新たに収蔵するときには、かならず物語や歴史が付随するわけです。美術館との縁や、地域との縁をふくめてアーカイブしていくことで、作品と人との関係性の厚みが増していくのではないのでしょうか。千葉市美術館に來ればこの作品が見られる、言わば「推し」のような、みなさんそれぞれの好きな作品を持っていただけたらいいですね。

——河合館長の在籍中の大きなできごととして、2020年7月の拡張リニューアルオープンがあります。

河合 美術館は、独立した建物であることが理想です。小林さんも、美術館は「庭付き一戸建て」がよいとおっしゃっていました。市長や市役所などとのさまざまなやりとりを経て、拡張リニューアルオープンを実現できたことは、本当によかったと思っています。名目としては僕の実績になるのかもしれませんが、その陰には、25年間にわたる学芸員と事務方の方のみなさんの地道な積み重ねがあります。そして、市民のみなさんや市当局の理解と評価があったからこそ、実現できたリニューアルであったと思っています。

山梨 拡張リニューアルオープンでは、教育普及を担う施設も新設されたと聞きました。わたしは秋田市出身なのですが、1960年代当時、



山梨絵美子新館長

秋田県立美術館ではお絵かき教室が開かれていました。作品を見るだけでなく、地域のプロの作家となにかを作ったり体験したりする機会が設けられていたんですね。千葉市美術館は首都圏にある美術館ではありますが、市立の美術館として、地域の方々とも距離が近いのいいところですね。新しい施設ができて、そういった機会が増えているので、新しい展開を期待しています。

——最後に、河合館長には山梨さんに期待されること、山梨さんにはこれからの抱負をお聞きたいと思います。

河合 やっぱ一番大事なのは、山梨さんの色を出していくことです。辻さんと小林さんは、生まれたての千葉市美術館を育てる期間、ぼくはそれを引き継ぎ、その若木を成長させる期間であったと言えます。なので、つぎの山梨さんは、千葉市美術館に花を咲かせる期間になると思います。学芸員たちとも協力し、山梨さん色を出しながら、千葉市美術館のさらなる発展を期待しています。

山梨 千葉市美術館の豊かな所蔵品を、市民のみなさんに広く知っていただきたいです。所蔵品は市民の財産ですので、データベースやアーカイブを充実させていながら、美術館や所蔵品に親しみを持っていただきたいですね。また、千葉市美術館では、毎年年初に獅子舞をやっているんですね。こういうことが、じつは大事だと思っていて。美術作品の主題は、生活と結びつくものが多々あります。美術と生活の持つ関係性を、獅子舞をはじめ、いろいろな企画を通して示していけるとよいと思っています。

プロフィール

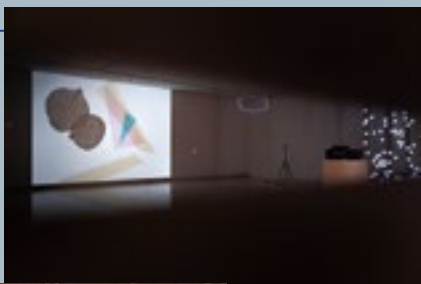
山梨絵美子（やまなし・えみこ）

1958年秋田県生まれ。1984年独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所入所、元同研究所副所長。専門は日本近代美術史で、とくに高橋由一、小林清親、黒田清輝など近代日本の洋画を中心に研究。企画・監修したおもな展覧会に「没後100年記念東京国立博物館所蔵高野コレクション 浅井忠展」（2005年、日本橋高島屋ほか）、「生誕150年 黒田清輝展」（2016年、東京国立博物館）などがある。

千葉県在住の現代美術家・志村信裕さんをお迎えした「影を投げる」。志村さんは、会期中ほとんどの週末を会場で過ごし、空間をつくり変え続けました。いったいどのような変化が起こったのか、3つのハッシュタグをテーマにレポートします。

[写真:丸尾隆一]

#見る



#投げる



#撮る



会場の奥につくられた空間では、志村さんの作品や、ワークショップで制作した映像を投影しました。大量のボタンに埋められたり、金魚をつかまえたり、プロジェクション作品ならではの楽しめかたが広がりました。

会期中、プロジェクション作品をじぶんで作れるキットを配布しました。スライドマウントに好きな素材をはさんでプロジェクターで投影すると……手のひらに収まっていた小さな世界が、光を通して壁一面に広がります。これぞまさに、「影を投げる」。

貴重な8ミリフィルムカメラを使ったワークショップを開催しました。チャンスは一度きり、撮った映像をその場ですぐには確認できません。いつもより注意深く世界をとらえた作品には、風にゆれる提灯や走る車など、様々な日常が写っていました。



【次回予告】2021年4月15日～7月4日

つくりかけラボ03 武藤亜希子 | C+H+I+B+A ARTシェアばたけ

現代美術家の武藤亜希子さんをお迎えし、「素材にふれる」をテーマに、会場を「はたけ」につくりかえます。植物がゆたかに育つ季節、千葉市美術館の一室に、見たことのない実やふしぎな草花が芽生えます。みなさんの手で、「ARTシェアばたけ」をいっしょに育てていきましょう！

*ふしぎなかたちの 展覧会チラシを配布中

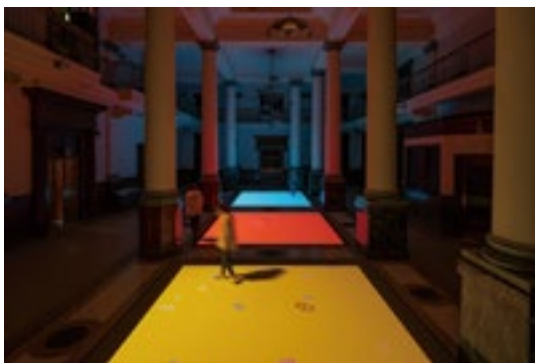
きみだけの実をつくって美術館に持ってこよう！「ARTシェアばたけ」に展示します。



現代美術家・宮島達男氏が「令和2年度（第71回）芸術選奨美術部門 文部科学大臣賞」を受賞しました



宮島達男氏



会期中さや堂ホールに展示された《Floating Time》の様子
Photo by Nobutada Omote

2020年9月～12月に千葉市美術館で「宮島達男 クロニクル 1995-2020」を開催した宮島達男氏が、この展覧会をはじめとした成果を評価され、「令和2年度(第71回)芸術選奨美術部門 文部科学大臣賞」を受賞しました。

芸術選奨文部科学大臣賞は、美術、音楽、演劇、映画など芸術11部門において優れた業績を上げた人物に対して贈られる賞です。「宮島達男 クロニクル 1995-2020」は、首都圏では12年ぶりの大規模個展で、25年

間にわたる氏の作品や活動を展覧するものでした。当館の所蔵品である《地の天》(1996年)を起点のひとつに、LED作品やパフォーマンス、プロジェクトなど多岐にわたる作品が並び、現代美術家として世界に名を馳せる氏の力強い作品群をお見せすることができました。

開館25周年記念展でもある展覧会が評価のひとつとなったことを、一同大変嬉しく思っております。宮島さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

2021年度展覧会スケジュール

	2021.4	5	6	7	8	9	10	11	12	2022.1	2	3
企画展	大・タイガー立石展 POP-ARTの魔術師 4月10日[土]—7月4日[日]			平木コレクションによる 前川千帆展 7月13日[火]—9月20日[月・祝]		江戸絵画と笑おう 7月13日[火]—9月20日[月・祝]		福田美蘭展 10月2日[土]—12月19日[日]		ジャポニスム 世界を魅了した浮世絵 2022年1月12日[水]—3月6日[日]		第53回 千葉市民 美術 展覧会 3月12日[土] —4月1日[金]
常設展	千葉市美術館コレクション選 ※近世・近代美術は1ヶ月おき、現代美術は3ヶ月おきに展示替えを行います。											
つくりかけラボ	つくりかけラボ03 武藤亜希子 C+H+I+B+A ARTシェアばたけ 4月15日[木]—7月4日[日]			つくりかけラボ04 飯川雄大 デコレータークラブ —0人もしくは1人以上の観客に向けて 7月14日[水]—10月3日[日]			つくりかけラボ05 松本力 SF とりはうたう ひみつを 10月16日[土]—12月26日[日]			つくりかけラボ06 岩沢兄弟 2022年1月13日[木]—4月3日[日]		

美術館の仕事を紹介します！

その12 いらっしゃませ！ミュージアムショップ「BATICA」

千葉市美術館の1階には、ミュージアムショップ「BATICA（バチカ）」があります。すてきなセレクトで美術館の魅力を引き立ててくれている「BATICA」のスタッフ・津田彩名さんに、ミュージアムショップのお仕事についてお聞きしました！

BATICAについて

“地域の文化と本のあるお店”をコンセプトに、美術館や展覧会に寄り添った書籍や商品、そして千葉ゆかりの作家やメーカーのプロダクトをご紹介します。ショップを通して、展覧会をさらに楽しんでいただくこと、そして千葉の魅力にも出会っていただけるお店を目指しています。

千葉（チバ）を逆さまにした「バチ」と、ここから文化を育てていきたいという願いをこめ、文化＝カルチャーの「カ」をくっつけた造語です。「バチカチバ」と書くと回文になったり、“近場”という言葉にも似た響きがあったり、みなさんに身近に感じてもらえるような場所でありたいな、という気持ちで「BATICA（バチカ）」という名前をつけました。

BATICA

BATICAの由来



@batika_chiba

@BATICA_CHIBA

ミュージアムショップの仕事

① 展覧会に合わせた選書

「BATICA」で取り扱っている本は、「本屋さん」という名前で本にまつわる仕事をされている、いわば本のプロフェッショナルの方が選書しています。美術を中心とした常設の本、そして展覧会ごとに展覧会のコンセプトや作家に関連した本も毎回選書していただいています。



田中一村展 角皿(3種)



田中一村展 角皿

② 展覧会オリジナルグッズの制作

展覧会に合わせたオリジナルグッズを制作しています。作品を観賞した時の気持ちを持って帰ってもらえるよう、展覧会の記念になるようなグッズを企画し、制作しています。



宮島達男展 PVCトート

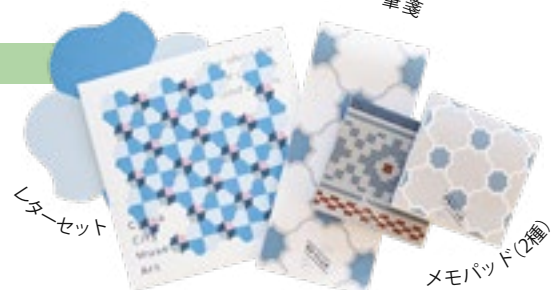


宮島達男展 Tシャツ



宮島達男展 Tシャツ

一筆箋

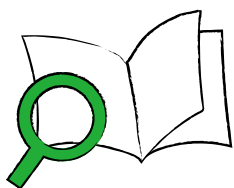


スターセット

メモパッド(2種)

③ 千葉市美術館オリジナルグッズの制作

千葉市美術館そのものも、とても魅力的な空間なので、展覧会をきっかけに千葉市美術館のこともさらに好きになってもらいたい！という気持ちで、オリジナルグッズを制作しています。最近では、美術館の特徴でもある、さや堂ホールのタイルをモチーフにしたグッズを制作しました。



びじゅつライブラリーおすすめ本紹介コーナー

本をみる、美術をよむ vol.3 タイガー立石の「漫画と絵本」の仕事

「大・タイガー立石展」にちなんで、タイガー立石による漫画や絵本をご紹介します。色鮮やかで変化に満ちた世界を、本を通してお楽しみください！ 紹介した本はすべてびじゅつライブラリーでお読みいただけます。

タイガー立石 『とらのゆめ』



名前にもあるとおり、タイガー立石は「とら」を描き続けました。主人公のとらきちは、夢の世界を歩いています。だまし絵のなかに迷い込んだり、ぐるぐる回って頭とおしりがくっついてしまったり。展覧会では、絵本のもとになったアイデアノートも展示しています。

谷川俊太郎・文、タイガー立石・絵 『まます すきです すてきです』



呪文のように聞こえるタイトルには、どんな意味が込められているのでしょうか？ ページをめくってなるほど納得、けれどだんだん行き先が見えなくなって……。谷川俊太郎の言葉と、タイガー立石のイラストが、絡まり解けて世界を転がす1冊。

タイガー立石 『たくさんのふしぎ 顔の美術館』



世界中の美術作品に描かれた「顔」を紹介する1冊。歌川国芳からマルセル・デュシャンまで、めくってもめくっても顔・顔・顔。「ヘンな顔を考えてみよう」というページでは、タイガー立石の独創的な世界観が爆発しています。

タイガー立石 『ムーン・トラックス タイガー立石のコマ割り絵画劇場』



「コマ割り絵画」とは、タイガー立石が生んだ表現です。漫画のコマ割りを絵画に取り入れることで、ひとつの絵画のなかに時系列が生まれます。レモンは輪切りにされ月になり、日食を終えた太陽はダイヤモンドになる。摩訶不思議なメタモルフォーゼをお楽しみください。

「びじゅつライブラリー」とは、千葉市美術館 4 階にある図書室です。美術にまつわる親しみやすい本を、約 4,500 冊配架しています。



ぜひふらっと遊びにきてください！



こんなものどうですか？

横山裕一 『ファッションと密室』 『プラザ』



横山裕一の作品は「ネオ漫画」と呼ばれます。最低限のせりふと、爆音が聞こえてきそうなオノマトペ。漫画というかたちをとめながら、タイガー立石の「コマ割り絵画」と通ずる、未知の印象を与えます。